



本村小だより

<http://www.higashikurume-school01.jp/~hon-e/>

令和7年2月3日

2月号

東久留米市立本村小学校

校長 永瀬 功二

Tel 042-474-0404

地域に見守られながら

副校長 佐藤 有紀

学校では、月に1回、地震や火災、不審者侵入などを想定して避難訓練を実施しています。子供たちは毎月の避難訓練を通して、授業中に自分の教室や他の教室などで避難訓練の放送が流れると、静かに行動できるようになりました。

阪神淡路大震災から30年目の1月17日には、休み時間に地震が起きた想定で避難訓練を行いました。いつもと違って教員が近くにおらず、皆がばらばらの場所にいます。天気も良く、多くの子供が校庭で遊んでいた中休みに、避難訓練の放送が入りました。教員の指示に従い校庭の中央に集まり、頭を守る姿勢で座って待つ様子が見られました。校舎内にいた子供たちは、近くの教室に入りできるだけ近い机の下に入りました。その後、放送の指示で避難が始まりましたが、近くに大人がいない状況で、不安のためか私語が多くなってしまいました。

もし、登下校時や地域で遊んでいる時など、大人が近くにいない状況で大地震が起こったら、子供たちはどんな行動ができるでしょうか。「スマートフォンで家族に電話すれば何とかかなる」と思っている子供もいるかもしれませんが、災害時には電話がつかないかもしれません。これまで経験したことがない状況の中で、自分の身を自分で守る行動について改めて考える機会となりました。危険に備える知識の1つとして、「地域の中で、困ったときに助けを求められる大人を知っていること」も力になるかもしれません。

本村小学校では、月に1回、「ほんむらっこ食堂」が開催されています。事前に申し込んだ児童が学校に残り、図書室で工作やゲームをしたりお話し会を聞いたり、体育館で東久留米市の「児童の居場所づくり」事業と連携した体を動かす活動をしたりしています。活動後には家庭科室で地元の農家や市内の企業から提供された食材を活用した夕食を皆で味わっています。



ほんむらっこ食堂で楽しい夕食

現在約20名の方が運営に携わってくださり、設立の頃からの地域の方をはじめ、市報を見て参加して下さった方や、高校生、大学生もいます。子供たちの顔も覚えてくださり、「好き嫌いが多かったのに、たくさん食べられるようになったね」「低学年の頃は走り回っていたけれど、今は小さい子のお世話をしているんだね」などと、子供たちの成長に寄り添い、見守ってくださることに心より感謝しております。

学校では、3年生の社会科で「火事からくらしを守る 事故や事件から安全を守る」の学習のまとめとして、安全な暮らしについての標語を作った際に、「子どもハウスいつでも安全 見まもりたい(隊)」という標語がありました。子供たちも自分たちが地域の皆様に守られていることを意識しているようです。地域の皆様に見守られて育つ本村小の子供たちは、地域に愛着を感じながら成長しています。